昭和49年12月1日発行（毎月1回1日発行）第23巻・第12号 昭和29年6月23日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第2836号 昭和30年3月24日第三種郵便物認可

航空ファン

THE KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR
ノースアメリカン
P-51D



☆特集☆
戦闘機パイロットの"故郷"ネリス基地
総合解説・世界のジェット練習攻撃機
空からのスパイ・戦略航空偵察の現況

'74
DECEMBER
12

$3.30

MiG 21MF of Russian AF. (Photo; Kalevi Keskinen)



ソ連空軍のMiG-21MF。胴体下に23mmのGSh-23ガン・パック（弾丸200発）を装備。主翼下には増槽（108ガロン）を吊している。操縦席の風防上には小さなバックミラーがつけられているのに注意。



Russian MiG-21MFs visit Finland.



前ページとこのページはフィンランドの基地で撮影したMiG-21MF。MF型はMiG-21の最近型で，西側で“フィッシュベッドJ”と呼ばれるPFMA型のエンジンを強化，風防の頂部にバックミラーを付けるなどの改造をしたもの。PFMA以降では，胴体背部のフエアリングを高くして積載燃料を増やし，主翼下に2基のパイロンを追加して外部装備の懸吊装置は胴体下を含めて5ヵ所となるなど，MiG-21の“実力”は大幅に向上している

なお7ページ手前の機体は無塗装だが，ほかは全面に防錆塗装をしているのに注意。下の写真の機首側面に赤く見える円型のものは補助空気取入口ドア。（MiG-21の詳細は本社刊「世界の傑作機」No.55参照）





Tupolev Tu-95 Bear-D anti-shipping missile control aircraft.

〔上〕爆撃機改造の対潜哨戒機ツポレフTu-95ベア。胴体下に大きなスキャナをつけたベアDである。無給油で7,800マイル（12,550km）の航続力があるといわれるターボプロップ4発のTu-95は空海軍を含めて150機が就役している。米海軍のF-4の迎撃を受けて編隊で飛行中。

〔下〕同じく爆撃機改造の洋上哨戒機Tu-16バッジャーD。



Tupolev Tu-16 Badger-D maritime recon aircraft



Nellis AFB, Nevada.

General Dynamics F-111F and LTV A-7D of 57th FWW



General Dynamics F-111E of 57th FWW.

ネバダ州のネリス空軍基地は，米空軍戦闘機パイロットのふるさと。主力部隊タクテカル・ファイター・ウエポン・センター〔戦術戦闘機武器センター〕には，その実施部隊である第57戦闘機武器航空団（57FWW）があって，現用の第一線主力機を装備して戦技や武器の開発につとめている。

現在57FWWが運用テストを行なっているのは，F-105D/G，F-4D/E，F-111E，A-7Dの戦闘攻撃機とT-38タロン練習機。各機の戦術用法を練磨すると同時に，戦闘機武器教官の養成も行なっている。

前ページとこのページは57FWWのF-111E戦闘機。かつてベトナム戦に投入され，たてつづけに墜落して，新鋭機の面目をなくしたF-111A。その空気取入口を大きくするなどの改修をしたのがこのE型で，94が造られている。

（本文86ページ記事参照）





Republic F-105D of 66th FWS, 57th FWW.

57FWWの[illegible]（66FWS）所属のF-105D。胴体下の中心線にQRC-380 ECMブリスターを装備、下面には390ガロンの燃料タンクを付けている。


WA
274



F-105G of 66th FWS, 57th FWW, fitted with QRC-380 ECM blister.

前ページとこのページ上も，第66戦闘機武器飛行隊のF-105G。複座のサンダーチーフF-105FにQRC〈クイック・リアクション・コントラクト〉-380 ECMブリスターを装備した電子戦用機がF-105G。ネリスではワイルド・ウィーズル〈レーダー妨害〉の訓練に使われている。写真下は同じく57FWWのA-7DコルセアII。

LTV A-7D Corsair II of 57th FWW.





A-7D of USAF Fighter Weapons School, 57th FWW.

〔上〕A-7DコルセアII。57FWWの戦闘機武器教官の養成コースである戦闘機武器学校に所属する1機である。
〔下〕57FWWの第64戦闘機武器飛行隊（64FWS）に装備されているT-38タロン。同飛行隊では，写真の全面グレーの機体のほかに，ブルーとイエローの塗装にしたT-38も保有している。

Northrop T-38 Talon of 64th FWS, 57th FWW.



ファーンボロ航空ショーから





F-15 Eagle fighter finishes her run.

〔上〕ファーンボロ・ショーではF-15イーグルもダミーのスパローAAM4発を装備して飛行ショーに参加した。垂直上昇や車輪を出し，フラップをおろしての低速飛行なども披露した。写真は展示飛行を終えて着陸の瞬間。コクピット後方の胴体上面にスピード・ブレーキが展張している。

〔下〕アエルマッキMB326K。MB326のK型はG型をもとに開発した単座の練習・攻撃型で，胴体下両側に30mm機関砲を固定装備している。

Aeronautica Macchi MB326K.





ファーンボロ・ショー会場遠景。右手にC-5Aギャラクシイ、滑走路には赤いドラッグ・シュートをひいてSR-71が着陸。



Concorde 01 makes a show flight every day.

〔上〕コンコルド01が展示飛行中のファーンボロ会場。コンコルド01はフェイフォードのテスト基地から連日飛来して約6分間の飛行を行なった。中央にはニムロッド対潜哨戒機が見えるが，同機も胴体下面の爆弾倉扉を開いたままでのデモ飛行なども行なった。

〔下〕雨雲がたれこめた会場の地上展示場。BAC-111，ジャガー，ジェットプロボスト，フレンドシップなどが並んでいる。





Joyful Revelldom
この素晴らしい模型 この楽しさ!
ずっしり重い作りごたえ
大物登場!
新発売
ボーイング747"ジャンボ"〈ルフトハンザ〉
おなじみの"ジャンボ"スマートな〈ルフトハンザドイツ航空〉で登場します。しかもこのモデルは、内部が細かく再現され、ひと目でインテリアが見られるカットモデルです。(ディスプレースタンド付)
●1/144スケール 全長49cm 全幅41.2cm
●H-175 ¥2,000
新発売
メッサーシュミットBf-110G-4
第2次大戦で活躍したドイツの双発戦闘機。機首に突出たレーダーアンテナがユニークなスタイルをいっそう強調しています。
●1/32スケール 全長40cm 全幅50.8cm
●H-250 ¥2,300
KA
新製品が続々登場します
■飛行機
●ブリストル ボーファイターMK-1F(1/32) ¥2,300〈11月上旬〉
■1/12スケールオートバイ
●カワサキ マッハIIIGT ¥900〈11月中旬〉
●ヤマハ250DT-1 ¥900〈11月中旬〉
●カワサキ ストリートレーサー ¥900〈11月中旬〉
●ヤマハ250MX ¥900〈11月中旬〉
■帆船
●スパニッシュ カリアン ¥1,300〈11月下旬〉
だれにでもすばやく簡単に組み立てられ、レベルカラーで好みの色に塗装できるニューデザインのケース。4つの部分にわかれていて、各部は組込式で簡単に組み立てられ、帆船、飛行機、自動車のモデルや人形、クラフトなどのケースにいろいろと使えます。ぜひどうぞ。
●左右50cm 高さ38cm 奥行30cm
●SC-45 ¥2,500
レベルカラー
Revell
プラスチックモデルは
レベル
グンゼ産業(株)レベル部



〔上〕地上展示場のAJ-37ビゲン。RB05A空対地ミサイル，RB04E対艦船ミサイルなど各種武装とともに展示されている。
〔下〕展示飛行のために準備中のジャガーB。飛行展示は，開幕早々にS-67ブラックバード ヘリコプタの墜落事故があったが，F-15A，HSハリアー，AJ-37，ミラージュF.1，アルファジェット，それに新鋭のHS-1182ホークと多彩であった。



Two-place Jaguar displayed at Farnborough.

初飛行したF-5F戦闘練習機

Northrop F-5F takes off on maiden flight at Edwards AFB.

9月25日，エドワーズ空軍基地で初飛行に離陸するF-5F戦闘練習機。初飛行はノースロップ社のテストパイロット，ディック・トーマス氏が操縦して43分間滞空，高度23,500フィート（7,162m）に達し，最高速度はマッハ0.8であった。





YF-17 prototype takes on fuel from KC-135 tanker during inflight refueling test at Edwards AFB.

エドワース空軍基地のノースロップYF-17の1，2号機。〔上〕KC-135から空中給油テスト中の1号機。同機はこれまでに4回の空中給油テストを行ない，このなかでもっとも長く滞空したのは3時間25分であった。
〔下〕エドワース基地のハンガー内で，ベルギー，デンマーク，オランダ，ノルウエー各国の国防省関係の視察団に公開されるYF-17の2号機。このNATO 4ヵ国の視察団は，F-104Gの代替機の調査のためアメリカを訪問したもの。

Missions of Defense four NATO countries get a first-hand looks at YF-17 at Edwards AFB.



ホーカーシドレーHS1182ホーク

First Hawker Siddeley HS-1182 Hawk at Farnborough Air Show.

完成したばかりのHS-1182ホーク練習機の原型1号機は，ダンスフィールドのテスト場で初飛行を終えるやいなやファーンボロの会場にかけつけ，展示飛行に参加した。

写真は展示飛行にそなえて準備中のホーク。展示飛行は初飛行と同じくホーカーシドレーのテストパイロット，ダンカン・シンプソン氏が操縦，時速約730kmの飛行であった。





“サンダーバーズ” のT-38

Northrop T-38 Talon of USAF “Thunderbirds”

今年初めにF-4EファントムIIをT-38Aタロンに代えたアメリカ空軍の曲技飛行チーム，“サンダーバーズ”は，本拠地ネリス空軍基地での訓練を終えて，各地の飛行ショーへの出演を開始している．写真はこのほど行なわれた飛行ショーでの晴れ姿．

ファーンボロ・ショーのSR-71

Lockheed SR-71 Blackbird at Farnborough Air Show.

ニューヨークからロンドンまで1時間55分42秒のスピード記録をたててファーンボロ・ショーに乗り込んだロッキードSR-71ブラックバード，ショーが開幕する9月1日に到着，地上展示場で公開された。

(Photo: Inter-Air Press)





ファーンボロ・ショーに展示されたSR-71は，カリフォルニア州のビール空軍基地に駐留する1機（シリアル17972）。同機はショー終了後の9月8日にサフォーク州のミルデンホール基地に向い，ふたたびロンドン—ロサンゼルス間の速度記録をめざして12日に同基地を発進したが，離陸30分後にエンジン・トラブルで引返し，翌13日に飛び立って，ロサンゼルスまで3時間47分39秒という新記録をたてた。世界が注目しているマッハ3の戦略偵察機ブラックバード—海外で公開されたのはこれが初めてである。





Lockheed SR-71 17972 visited the Farnborough Air Show in Sept. (Photo; Inter-Air Press)

写真上は9月1日、ファーンボロの滑走路にタッチダウンしたSR-71。尾部からドラッグ・シュートが顔を出している。新記録をつくった乗員はパイロットのジム・サリバン少佐とシステムズ・オフィサーのノエル・ウイデフィールド少佐。両少佐はファーンボロ着陸と同時に、フォード大統領から祝福の電話を受けた。





このページ2枚は，ファーンボロ・ショー終了後，サフォーク州のミルデンホール米空軍基地でアメリカへの新記録飛行にそなえて準備中のSR-71ブラックバード。SR-71はこのほど実動機数を6機から8機に増やしており，カリフォルニア州ビール空軍基地の第9戦略偵察連隊(9th SRW)がその担当部隊で，海外にも数機が派遣されている。写真のA型のほかに，後席を一段高くした複座練習型のB型も1機造られビール基地に配備されたが，事故で失なわれ，現在それに代るC型が配備されている。

SR-71 Blackbird at Mildenhall in Sufolk. (Photo; Inter-Air Press)





ネリス空軍基地

Nellis AFB, Nev. USA


WA
AF 72 221







左ページは第57戦闘機武器連隊所属のA-7DコルセアII。この部隊は戦術戦闘機武器センター（本文ページ参照）の任務を実際に運用している。上は同連隊所属のF-105D。後方に見えるのはF-4E。ネリス基地の南にあるインディアン・スプリング空軍補助施設は戦術空軍の射爆場中最も広く、一年中他基地から戦闘機などが飛来し射爆撃訓練を行なっている。下は訓練のため飛来した州航空隊（ANG）所属のRF-101Cブードー。

(Left page) A-7D Corsair II of 57th FWW. (Top) F-105D of 57th FWW. Seen in the rear is F-4E. (Bottom) RF-101 Voodoo of an unknown Air National Guard. This aircraft has just arrived here, Indian Spring training center, south of Nellis AFB.

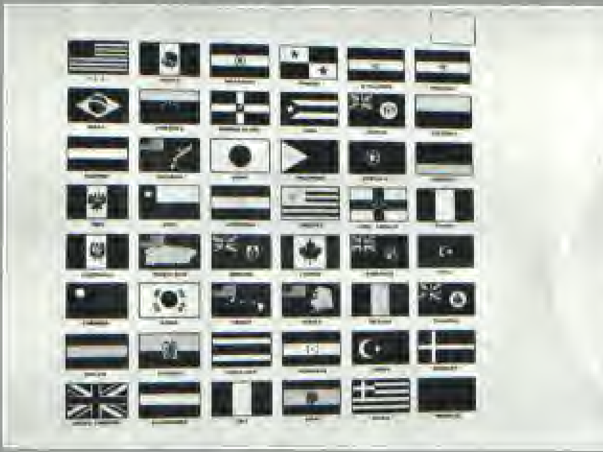




上は第57戦闘機武器連隊所属のT-38A。この部隊のT-38は訓練航空団と異り小型戦闘機との戦闘法の開発、訓練を行っている。下は本誌9月号で紹介した、ネリス基地をホームベースとしているアクロバットチーム"サンダーバーズ"のT-38A。中右は胴体左側に書きこまれている同チームの訪問した国の国旗。

(Top) T-38A of 57th FWW. New fighting tactics are under development here by using the T-38. (Bottom) T-38A of "Thunderbirds" acrobat team. (Right middle) Flags of various countries where this team has paid a visit are described on the left side of the fuselage.







ロッキードSR-71A
Lockheed SR-71A







去る９月のファンボロ航空ショーに展示され，アメリカから会場への往復飛行で速度記録をつくった，ロッキードＳＲ-71Ａ戦略偵察機。このほど２機が増強されて，現在戦略空軍では，８機のＳＲ-71が実動配備になっている。ファンボロに展示された機体は，ビール空軍基地に駐留している第９戦略偵察連隊（9th ＳＲＷ）所属の１機で，本機が海外で公開されたのはこれが初めてである。右２枚は離陸するＳＲ-71Ａ。

Lockheed SR-71A desplayed at the 1974 Farnborough Air Show in September. American strategir reconnaissance aircraft made a speed record in the shuttle flight to and from the Show site.




U.S. AIR FORCE

ジャンボ・カーゴ　B747F

JAL's "jumbo cargo" B747F



10月1日から日本航空の太平洋線に貨物機のジャンボ・カーゴB747Fが就航した。これは日本航空が国際航空貨物需要増加にともない本機を導入したもので、発注6機の1番機が9月20日羽田に到着して、これまでコンテナ積み卸しなどの地上訓練を行なっていた。

Beginning October 1, Japan Air Lines placed the B747F large cargo transport on its Pacific route cargo service,
The first of six now placed in order arrived in Haneda on September 20.





日航のB747Fの塗装は新しくなった。従来のＪＡＰＡＮ　ＡＩＲ　ＬＩＮＥＳの文字に加えて本機では写真のようにＪＡＬ　ＣＡＲＧＯの文字が大きく描かれている。またこれを機会に以前から使用されているＤＣ-８Ｆ貨物専用機も同様の塗装に一新する予定である。









フォート ニュース





〔上〕ブリティッシユ・
アウェイズが発注した18
のロッキードL 1011トラ
スターの1番機がこのほ
カリフォルニア州パーム
ールで初飛行した。
〔左・下〕オーストラリ
で開発した農業用機。開
者の話によれば、この飛
機は一種の農具としての
をする空とぶ農業機械で
地上を走るのがトラック
ら、さしづめエア・トラ
タというべきものだとし
胴体はソラ豆のような形
パイロットはエンジン右
上の狭いポッドに座わる
同機は大量の肥料などを
い場所から飛び立ち、広
耕地に散布する作業を迅
にくりかえすという機能
重視したことから生れた
のである。







アメリカ空軍のＡＷＡＣＳ（空中警戒管制システム）機のテスト・ベッドであるボーイングＥＣ-137Ｄ。1977年から78年にかけて実用をめざしているボーイングＥ-3Ａ（ＡＷＡＣＳ）機の原型機として，ボーイング707-320Ｂを改造したもので，2機がつくられ，最近飛行テスト計画を終えた。機体上部に大きな回転レドームを装備して，空中受油装置をつけたほかは，民間型のＢ707-302Ｂとほとんど変わっていない。





〔上〕ボーイング737を使った米航空宇宙局（ＮＡＳＡ）の飛行調査プログラムがこのほど、バージニア州ハンプトンにあるＮＡＳＡのラングレー・リサーチ・センターで開始された。〔右〕ボーイング747ＳＰ計画はワシントン州エバレットで順調に進められているが、写真は完成に近ずいたＳＰのモックアップ。〔下〕ファンボロ航空ショーには珍しくも次のロッキード一族が出場した。左からＳＲ-71Ａ、Ｃ-5Ａ、Ｐ-3Ｃ、Ｓ-3Ａの各機と、会場上空をデモ飛行中の機体はＬ1011トライスターである。





〔上〕ファンボロ航空ショーの会場で、セスナ・サイテーションにイギリス航空局（CAA）から、イギリスにおける運航証明書が渡された。〔右〕洪水と飢餓に苦しむバングラデシュにコレラ・ワクチンなどの救難物資を空輸するソ連のAN-12。（TASS）

〔下〕火山調査に活躍するMI-8。バックの山はカムチャッカ半島のカリムスキー火山。（TASS）





スナップ　だより





〔上〕那覇基地に駐留している第5混成飛行隊（VC-5）所属のTA-4J。この機体はVC-5の分遣隊としてフィリピンのキュービーポイントに配備されているもの（東京都　Y・T）。

〔左〕横田基地に最近飛来しているC-130Eの中には写真のように主翼下面や胴体下面に多くのアンテナを付け、胴体側面にポッドを装備した機体が見られる。（昭島市　山内康夫）。

〔下〕海上自衛隊のPS-1の15号機が完成しテスト飛行を行なっている（西宮市浜野博司）。



P-51 MUSTANGs of 8th A.F.

ワイドカラー WIDE COLOUR



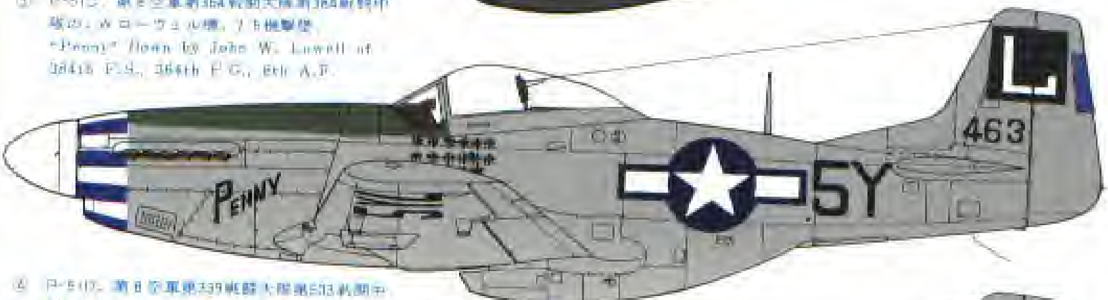
① P-51B，第8空軍第4戦闘大隊第334戦闘中隊のD.W.ビーソン機，9.3機撃墜。
"Bee" flown by Duane W. Beeson of 334th F.S., 4th F.G., 8th A.F.



② P-51B，第8空軍第355戦闘大隊第354戦闘中隊のH.W.ブラウン機，17.2機撃墜。
"The Hun Hunter from Texas" flown by by Henry W. Brown of 354th F.S., 355th F.G., 8th A.F.



③ P-51D，第8空軍第364戦闘大隊第384戦闘中隊のJ.W.ローウェル機，7.5機撃墜。
"Penny" flown by John W. Lowell of 384th F.S., 364th F.G., 8th A.F.



④ P-51D，第8空軍第339戦闘大隊第503戦闘中隊のF.R.ジラードの乗機，8機撃墜。
"D7-U" flown by Francis R. Gerard of 503rd F.S., 339th F.G., 8th A.F.



⑤ P-51D，第8空軍第20戦闘大隊第79戦闘中隊所属機。
"CORKY" of 79th F.S., 20th F.G., 8th A.F.



© K. Hashimoto





NORTH AMERICAN P-51 MUSTANG ■太平洋戦線のムスタング

⬆P-51 Mustaugs of 506th FG for mass take-off from Iwo Jima.

〔前ページ〕砂じんをあげて硫黄島の飛行場を離陸するP-51D。1945年5月から同島に配備されて，日本本土をめざすB-29爆撃機護衛の任務についた第506戦闘大隊第458戦闘中隊の所属機。1945年7月の撮影。

〔上・下〕同じく編隊で離陸するP-51D。上の写真で尾翼を赤く塗ったのは第506戦闘大隊第457戦闘中隊機，しま模様のマークは第458戦闘中隊の所属機である。





P 51D's of 361st FG, 375th FS, 8th AF.

フランス上空を進撃するP 51D。第8空軍第3[illegible]戦闘大隊第375戦闘飛行隊の各機。先頭の黄色機首は[illegible]リスチャン大佐の乗機。



これもフランス上空の第8空軍第361戦闘大隊第374戦闘中隊のP-51D。先頭の「B7-M」機はR.A.ウェブ中佐の乗機である。



B-29 bomber and P-51D Mustang of 407th FS, 506th FG circle off the coast of Japan. July 1945.

（上）終戦間近い昭和20年7月，日本本土沿岸を行くB-29スーパーフォートレスと護衛のP-51D．P-51Dは第506戦闘大隊第457戦闘中隊の所属機．攻撃を終えて，集合地点に向うところである．
（下）朝鮮動乱に派遣されたオーストラリア空軍のムスタングⅣA．主翼下に127mmのロケット弾用マウントを装備している．オーストラリア空軍では約290機のムスタングを装備している．写真は地上部隊を支援して発進準備中．1950年12月2日の撮影．

Mustang ⅥA of Royal Austrarian AF, Dec. 1950, Yonpo airfield, Korea.





■ヨーロッパ戦線のムスタング

〔上〕フランス上空を飛行中のP-51Dの機首クローズアップ。第8空軍第361戦闘大隊第357戦闘大隊のU.L.ドリュー少尉の乗機である。108USガロン増槽を装備。機首の細部がよくわかる。風防下側面に見える小さなアナは，不時着の際に信号弾を発射する射出口で，胴体左側面のみにつけられている。

P-51 of 361st FG, 357th FS flying over France.

〔下〕同じく第8空軍第361戦闘大隊第375戦闘中隊のP-51BとD型。カラーページに掲載した写真と同じときのシーンで，先頭の機体は，大隊司令官J.J.クリスチャン大佐の乗機。1944年7月20日の撮影。

P-51D/Bs of 361st FG, 357th FS over France.





英国の基地で整備中の第8空軍のF-51D。機上の整備員は燃料パイプの点検、機体の下では油圧ポンプを調整しているところ。



P-51H Mustang.　ムスタングの最終生産型で最高速のP-51H。D型にくらべて風防が小さくなり、垂直尾翼も改造された。終戦まで555機が生産され、一部は太平洋の戦場に投入された。



〔左〕スチールトマットの急造飛行場を離陸する第15空軍のP-51C。爆撃機の護衛任務に出撃するところ

〔下〕占領したドイツ軍の飛行場に着陸した第8空軍のP-51D。手前に見えるのはMe262ジェット機の残骸。飛行場を捨てたドイツ軍は，建物や残留機を破壊して後退した連合軍の爆撃で，滑走路も穴だらけ

⬆P-51C taking off from steel matted runway at an airdrome in south Italy.

⬇P-51D shown after landing on captured German airfield at Polzen, Germany.





P-51D of 31st FG, 307th FS, 15th AF in flight over Italy.

上　南イタリー上空を飛行中のP-51Dムスタング、第15空軍第31戦闘大隊第307戦闘中隊の所属機。尾翼に赤いストライプスのマークをつけ、機首の側面に"AMERICAN BEAUTY"のニックネームを赤で書いた機体である。

下　カナダ空軍第402"シテイ・オブ・ウイニィペグ"予備役中隊所属のムスタングⅣ。1952年7月8日、ウトソン・レイクのカナダ空軍基地で撮影。

Mustang Ⅵ of No. 402 (City of Winnipeg) Auxiliary Sqdn., RCAF, Watson Lake, Y. T., 8 July 1952.



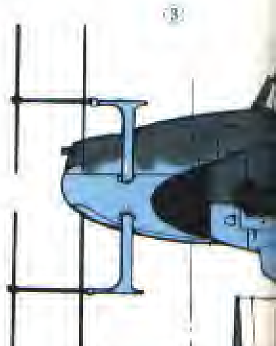
①



②



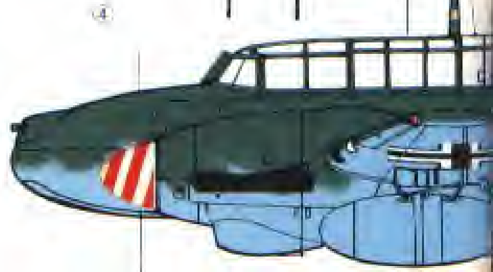
③



MESSERSCHMITT
BF110 G-2～4

1/32 SCALE KIT

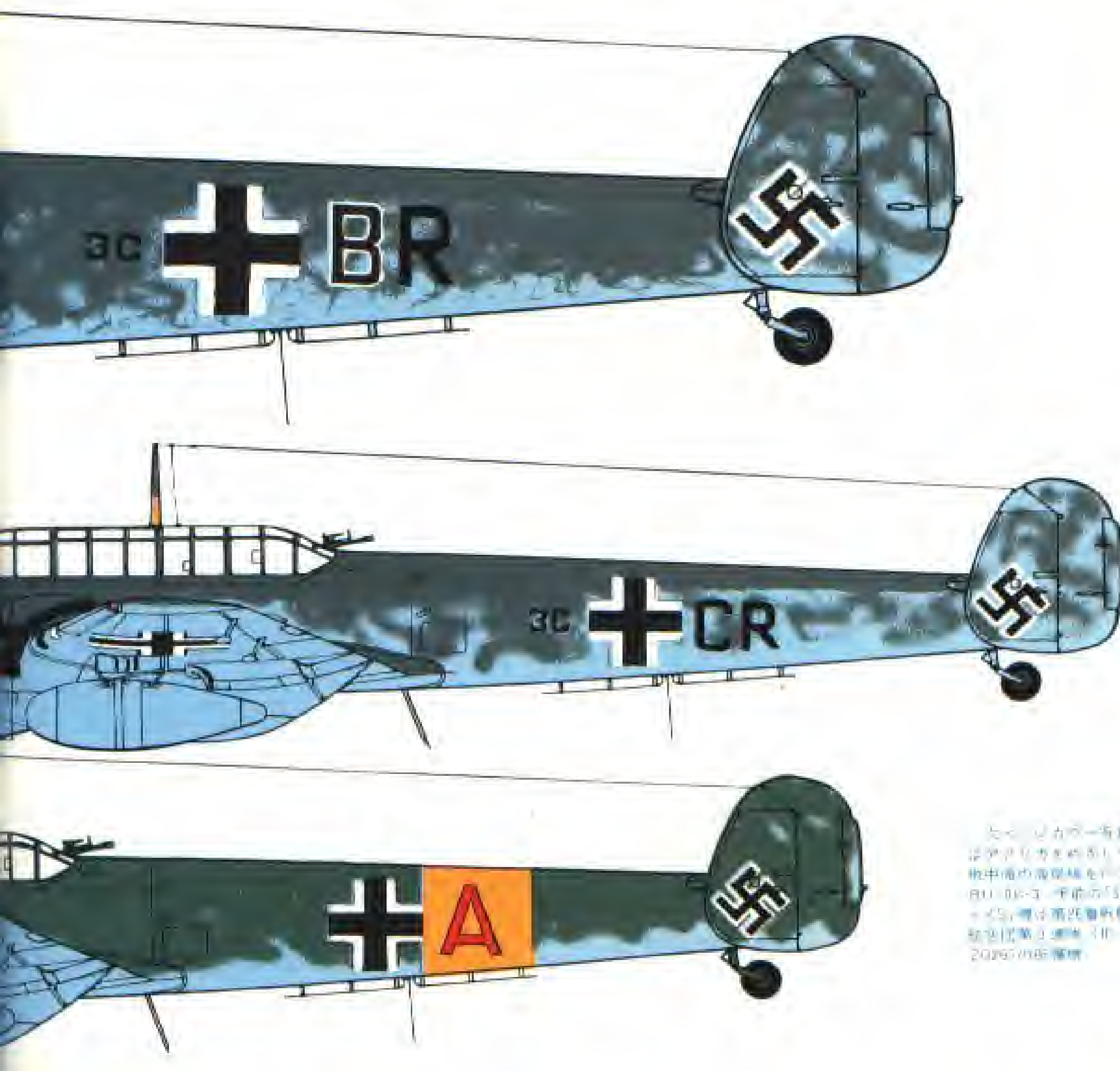
④



① Bf110G-4a/R2, 第3夜間戦闘航空団第8中隊所属機(8./NJG3)
② Bf110G-4a/R3, 第4夜間戦闘航空団第7中隊所属機(7./NJG4)
③ Bf110G-4a/R3, 第4夜間戦闘航空団第7中隊所属機(7./NJG4)
④ Bf110G-2, 第76駆逐航空団第5中隊所属機(5./ZG76)



メッサーシュミットBf110C型のバリエーション



左ページカラー写真はアフリカをめざして地中海の海岸線をいくBf110C-3。手前の「SU+EG」機は[illegible]

ハイモデリングのための
レベル資料集

メッサーシュミットBf110G-4

MESSERSCHMITT Bf110G-4



レベルからBf110G-4の1/32スケール・キットが新発売される。

このモデルは機首にFuG212リヒテンシュタイン・レーダーとSN-2レーダーをもつG-4b/R3型で，左右とも実感の出たエンジンを内蔵し，キャノピが開閉，機首上部を着脱すると内部の機銃が見えるようになっているデラックス版。

バリエーションの少いG-4b/R3以外の塗装を楽しむためにG-4d/R3への改造と塗装をご紹介してみよう。次ページの写真のように機首のレーダーを改造すると，カラー図のような機体を作ることができる。

☆塗装について☆

図① 8/NJG 3所属の4d/R3型で，機体の上側面がライトグレーの地色の上へグレー75③のはん点迷彩。機体下面はライトブルー⑳，胴体の背はグレーが濃くなっている。

図② 7/NJG 4所属の4d/R3，機体側面がライトグレーの地色で，グレー75の蛇行迷彩があり，胴体の背と翼上面はグレー74とグレー75のスプリンター・タイプ迷彩と推定される。機体下面はライトブルー⑳で，エンジン部と主翼および水平尾翼の下面が黒のつや消し㉝。

図③ 7/NJG 4所属機で，機体の側面と下面がライトグレー，胴体側面にグレー75のはん点迷彩があり，胴体の背と翼上面はグレー74とグレー75のスプリンター迷彩。

図④ 5/ZG 76所属のG-2型で機体の側面はライトブルーの地色の上にRLMグレーのはん点迷彩があり，下面はライトブルー，胴体の背と翼上面はダークグリーンとブラックグリーンのスプリンタータイプ迷彩となっている。

〔レベル・カラーの混色法〕

RLMグレー ダックエッグ・グリーン（4）＋機体内部色（3）＋白（2）＋黒つや消し（1）。

ライトグレー。明灰白色（8.5）＋ダークイエロー（1）＋黒（0.5）。

（イラストと解説・橋本喜久男）



← メッサーシュミットBf110G-4b/R3
↑ メッサーシュミットBf110G-4d/R3

Kit :
Revell recently put on sale a 1/32 scale plastic model kit of the Messerschmitt Bf110G-4b/R3 supplemented by FuG Lichtenstein radar and SN-2 radar. The nose top is removable and the fixed forward-firing armament of four 7.9-mm MG17 is visible. There is no need to say about the Revell accuracy of the engine and cockpit built-up.

In order to fully enjoy the variety in painting and structure of the Bf110G-4, an example is shown to convert the G-4b/R3 to G-4d/R3.

The G-4d/R3 version figured in the color illustration, P. 118 119, is easily to be made by rebuilding the radar antenna as shown in the above photo on this page.

Painting :
Fig. 1. Bf110G-4d/R3 of 8/NJG 3. The top and sides of the airplane are gray-75 camouflaged upon the light gray basis. The fuselage top gray is thinner than other parts. The bottom surfaces of the airplane is Revell Color (RC) 20, light blue.

Fig. 2. Bf110G-4d/R3 of 7/NJG 4. The sides of the fuselage are gray-75 zigzag camouflaged upon the light gray basis. The fuselage top and the wing upper surfaces are supposed to be a splinter scheme camouflage of gray-74 and gray-75. The bottom surfaces are RC-20, light blue. The engine and the under-surfaces of the main wing and stabilizer are anti-glare black.

Fig. 3. Bf110G-4d/R3 of 7/NJGG 4. The airplane sides and bottom are light gray. The fuselage sides are dot-camouflaged with gray-75. The fuselage top and wing upper surfaces are camouflaged in a splinter scheme with gray-74 and gray-75.

Fig. 4. Bf110-2 of 5/ZG 76. The fuselage sides are dot-camouflaged in RLM gray, upon the light gray basis, while the under-surfaces are light blue. The fuselage top and wing upper surfaces are camouflaged in splinter scheme with dark green and black.

Revell color mixing :
RLM gray : Dark-egg green (4) + Malachite green (3) + White (2) + Anti-glare black (1). Light gray : Bright gray white (8.5) + Dark yellow (1) + Black (0.5).

Revell Color for Bf110 :

RC 8	Silver	20	Light blue
17	Dark green	18	Black green
36	Gray-74	37	Gray-75
35	Bright gray white.	RC-1, 2, 3, 4, 5, 26, 27 & 34	

Bf110の塗装に必要なレベル・カラー

⑧シルバー　⑳ライトブルー
⑰ダークグリーン　⑱ブラックグリーン
㊱グレー74　㊲グレー75
㉟明灰白色　その他①②③④⑤㉖
㉗㉞





North American P-51D Mustangs of 531 FS, 21 FG, Iwo Jima, 25 March 1945.

硫黄島のムスタング



（前ページ）硫黄島に急設された第2飛行場に集結したP-51Dムスタング。第21戦闘大隊第531戦闘中隊の各機。後方では飛行場の整備作業がつづけられている。1945年3月25日の撮影。〔上〕B-29を護衛して日本本土をめざすP-51D。第15戦闘大隊第45戦闘中隊の所属機である。〔下〕前ページと同じく第2飛行場エプロンの第531戦闘中隊のP-51D。

↑P-51D Mustangs of 45 FS, 15 FG from Iwo Jima escorting B-29 Super Fortresses.

↓P-51D Mustangs of 531 FS, 21 FG on Iwo Jima.





太平洋戦線に投入された最初のムスタングは第15と第21戦闘大隊の各機であった。1945年3月初め、ハワイから占領したばかりの硫黄島に飛来、同方面を担当した第20空軍の傘下となって、当初は小笠原諸島の日本軍施設攻撃に動員されたが、4月からは日本本土爆撃に向うB-29の護衛の任についた。5月には新たに第506戦闘大隊が参加、3個大隊のムスタングは、終戦まで日本本土への出撃をくり返すことになる。東京まで1,500マイル(2,414km)の遠征。主翼下に110ガロン増槽を2個を吊して出撃しても、目標地上空にはわずか15分間しかとどまることができなかった。日本機の迎撃のほかに気象条件も強敵で、7月1日に出撃した第506戦闘大隊のムスタングは、帰路悪天候にはばまれて燃料を消もう、15機を失なうという記録もある。

〔下〕これもB-29護衛任務で硫黄島を飛び立った第15戦闘大隊第45戦闘中隊のP-51D。

〔最下段〕発進にそなえてエンジンのウォーム・アップ。第21戦闘大隊第72戦闘中隊所属機。45年3月、到着したばかりの1機である。



⬆P-51D Mustangs of 45 FS, 15 FG, escorting a B-29.

⬇P-51D Mustang of 72 FS, 21 FG engine warm-up, before taking off for a bombing mission, Mar. 45.






156
186
63375





⬆P-51D returns after completing a bombing mission over Chichi Jima and Haha Jima, Bonins.

〔上・左・下〕同じく硫黄島のフライト・ラインに翼を並べる第15戦闘大隊第47戦闘中隊のP-51D。上は給油整備中、下は出動前のひとこま。47中隊機は垂直尾翼に黄フチつきの黒い三角マーク、胴体と主翼にも黄フチつきの黒い帯を巻き、スピナーも黄黒黄に塗っていた。下の写真は45年3月11日、父島および母島の攻撃に向うところ。〔右上〕これも3月11日、父島と母島の日本軍施設攻撃準備中の第15戦闘大隊第45戦闘中隊のP-51D。右手に攻撃を終えた1機が着陸。3月11日は改装成った硫黄島の飛行場からの初出撃であった。

⬅⬆⬇P-51D Mustangs of 47 FS, 15 FG in fueling, Iwo Jima. The airfield is still under construction.





（上）3月10日，出撃にそなえて硫黄島のエプロンに待機中の第15戦闘大隊第78戦闘中隊のP-51D。主翼下に増槽が2個ずつ，セットされるばかりにして置かれている。
（下）これも出撃準備中のP-51D。第506戦闘大隊の所属機で，写真後方の尾部に黒い縞模様のマークをつけたのは第458戦闘中隊機，手前は第457戦闘中隊の各機で，胴体尾部と水平・垂直安定板を赤く塗っている。

⬆Line-up of P-51D Mustangs of 78 FS, 15 FG, Iwo Jima, 10 March 1945.

⬇P-51D Mustangs of 506 FG preparing for a mass take-off from Iwo Jima.





Ki46-II of Shimbu Air Command.

陸軍の“戦略偵察機”

100式司偵

(上) 陸軍の100式司令部偵察機は、大戦も末期になると本来の任務を離れていろんな用途に動員された。写真の機体は特攻出撃のために館林飛行場に集められた100式司偵2型の1機。最後の決戦にそなえて温存されたが、ついに出撃する機会はなかった。

ARMY TYPE 100 COMMANDANT RECONNAISSANCE-PLANE

(下) 満洲の飛行第15戦隊に装備された100式司偵2型。同戦隊の100偵は開戦とともに南方に進出、南西太平洋からタイ、ビルマ戦線にかけて、進撃部隊の先頭に立って情報の蒐集に活躍した(本文80ページ記事参照)。写真は昭和18年頃の撮影。

Ki6 Ki46-II of No. 15 SENTAI, Manchukuo, 1943.



100式司偵の一部は、海軍の傘下に入って、洋上索敵にも活躍した。写真の機体もその1機で、ラバウルを基地に敵情偵察に飛んだ 100式司偵2型。パイロットが乗り込んで発進直前のスナップ。昭和17年8月頃の撮影。





Ki46-II, assigned to the Navy for an ocean enemy-detection mission, Rabaul, Aug. 1942.
(Photo by H. Togo)



〔上・右〕昭和20年5月、本土決戦にそなえて館林飛行場で編成された振武特攻隊の100式司令部偵察機2型。振武特攻隊は19個隊から成り、各個隊はそれぞれ6機ずつ装備。各地の部隊から集められた装備機の総数は50～60機で、そのうち100式司偵は15機。ほかは重爆が5機、疾風その他30機余であった。100式司偵の後方には疾風もうつっている。右の写真では胴体下に爆弾・増槽架が装備されているのがわかる。

〔右上〕独立第17中隊所属の100式司偵2型。同中隊の100式司偵は、来襲するB-29の偵察に活躍したが、なかには斜め銃をつけた防空戦闘型も数機装備していた。写真は昭和20年正月の"初飛行"のときのもの。

(Photo by K. Kito)

↑➡ Ki46-IIs of Shimbu Air Command, Tatebayashi Army Airfield, Jauary 1945.



⬆ Ki46-II of 17th Independent CHUTAI, known active in reconnoitering the B-29, Spring 1945.





ドルニエ　Do217







前号につづいて珍らしい写真で見るDo217。今回はE型とK型である。

左ページと下はロシア戦線で使われた波型のライトグレイ迷彩にしたDo217E。下の写真でその異様な塗装の模様がよくわかる。左ページ写真は積載のために油圧ジャッキで運ばれる500-ℓb爆弾。

右の写真は第40爆撃航空団第2連隊（II／KG40）に装備されたDo217E-2の垂直尾翼で、爆撃戦果を示すマーキングが画かれている。



Rudder of Do 217E-2 of II/KG 40.

Wave-scheme camouflaged Dornier Do 217E in northern Russian front.





　このページと次ページの４枚はＤｏ217Ｋ。機首が改造されて広くなり、透明部が機首先端までつづくことになるが、上の写真でそれがよくわかる。防御火器は機首前方のＭＧ81Ｚ（7.9ｍｍＭＧ81連装）×１，背部電動砲塔の13ｍｍＭＧ131×１、胴体下方にＭＧ131×１、キャビン両側方用にＭＧ81×２である。







Do217のE型につづくバリエーションは、E型の21号機を改造した高々度実験用のH、機首の武装を強化した重戦闘機型のJ-1、FuG212探索用レーダーを積んだ夜戦型のJ-2などがあるが、E型の後継となった爆撃型はKシリーズである。K型は夜間爆撃を主目的としてE型をもとに改造したもので、機首は再設計されて、段なし風防のまるい大きなものとなり、外形も大幅に変った。1942年秋に第2爆撃航空団(KG2)に装備されて戦場にデビューしている。最初の生産型K-1につづいて、主翼幅を延長して内翼下にFX1400無線誘導爆弾2発を積むようにしたK-2、その無線誘導装置を換装してHs293Aミサイルも積めるようにしたK-3なども造られている。







〔上・右・下〕飛行するＤo217K。

Ｄo217を完全に装備したドイツ空軍の爆撃航空団は1941年６月、最初に本機を受領してロシア戦線で闘った第２爆撃航空団（ＫＧ２）のみ。そのほか第40爆撃航空団第２連隊（Ⅱ／ＫＧ40）、第66航空団第３連隊（Ⅲ／ＫＧ66）、第100航空団第３連隊（Ⅲ／ＫＧ100）、訓練部隊の第101航空団第５中隊（5／ＫＧ101）などが装備している。

Ｄo217K－1型はＫＧ２に装備されてイギリス本土爆撃に使われており、Ｋ－2型は地中海方面のⅢ／ＫＧ100で艦船攻撃に活躍している。



Douglas DC-3



〔上〕フィンランド航空が大戦中の1942年に購入したダグラスDC-3。同航空では客席31席を設け、貨物の搭載量は3トンであった。写真は大戦中に就役中のもので、社名と登録記号のほか飾り気のない機体塗装である。

〔下2枚〕1956年に路線に登場、新時代のレシプロ機としてジェット機の就航まで、アメリカやヨーロッパの航空会社で使われたコンベア440メトロポリタン。本機は全日本空輸でも購入したのはご承知のところ。フィンランド航空では1953年の340型につづいてその改造型である本機を購入、ヘルシンキを基地に近距離路線に登場させた。同航空では写真の機体"OH－LRB"を含めて、現在でも5機のメトロポリタンを保有している。

エアラインの翼

FINNAIR's airliners

フィンランド航空 ⑥



Convair CV-440 Metropolitan

